

吹田市環境審議会議事概要

平成 22 年 (2010 年) 12 月 1 日 (水)

午前 10:00～午前 11:30

特別会議室

〈出席委員〉

小畑雄治郎委員	上 甫木昭春委員	中野道雄委員
新田保次委員 (会長)	和 田 武 委 員	和 田 安 彦 委 員
中本美智子委員	竹 内 忍 一 委 員	和 田 学 委 員 (副会長)
島 晃 委 員	井 上 亮 二 委 員	河 邊 哲 郎 委 員
大野和之委員	福 田 愛 夫 委 員	井 川 文 夫 委 員
奥井景子委員	瀬 部 俊 司 委 員	高 野 正 子 委 員
立木靖子委員	仲 西 智 裕 委 員	

〈欠席委員〉

芝田育也委員	保田淑郎委員	池淵佐知子委員
村口始委員	末廣美津子委員	

※委員 25 名中 20 名の出席により吹田市環境審議会規則第 5 条第 2 項の規程である会議の開催要件を満たしている。

〈事務局〉

富田副市長 平井都市創造総括監 永治部長 柚山次長 後藤環境政策推進監
畑澤総括参事 宮総括参事 中嶋課長 竹原課長代理 道澤主幹 清水主査
高木主査 佐藤主査 萬谷主査 野田主査 村澤係員

〈傍聴者〉 0 名

〈次第〉

- 1 吹田市地球温暖化対策新実行計画について
- 2 吹田市環境まちづくりガイドラインについて
- 3 吹田市第 2 次環境基本計画の進行管理について

(報告案件)

1 吹田市遺伝子組換え施設に係る環境安全の確保に関する条例改正(案)について

2 吹田市環境影響評価条例改正(案)について

(進行)

1 環境部次長あいさつ

2 会長あいさつ

3 資料説明

4 傍聴者確認(0名)

--開会--

会長 ○それでは、議事次第に従いまして、吹田市地球温暖化対策新実行計画につきまして説明をお願いします。

事務局 ○<資料1説明>

会長 ○ありがとうございます。それでは質問・ご意見をお願いいたします。

会長 ○私がお聞きしたいのは、9ページのところの上の段ですが、各部門の中でまちづくりが入ってきて、具体的には何故まちづくりの中で公共交通の利用促進等がクローズアップされたのか。これだけだと運輸部門に入れてもいいと思う。また省エネ行動の実践ということになると家庭部門等、色々な部門に入ってくる。削減見込量自体が少ないので、その理由もお聞かせいただければと思う。

事務局 ○基本的に国の中長期ロードマップの区分けに従っています。

会長 ○まちづくり部門になるのですか。個別施策ではいいのですが、吹田バージョンでクローズアップされたとは思いますが、意味がちょっとわからない。

事務局 ○交通ということで運輸部門に入りますが、都市計画的なところと絡むということで分けています。

会長 ○例えば公共交通の利用促進にあわせて、建物の立地誘導を行っていく。どこで削減効果を計算するかだと思うが、ここだけで成果が出てくるのかなど。

委員 ○会長のお話とリンクしますけども、10ページの基本方針に低炭素型まちづくりの推進の色々な施策がありますけども、その施策に対してある程度の削減量が見込める。そのひとつとして、9ページのまちづくりの省エネ行動実践というのが挙げられているのか。それと関連して、6ページの削減目安というところに9ページでいう低炭素型まちづくりの施策がどういうふうにあたっているのか、少し見えにくい。

事務局 ○8,9ページの産業部門はそのまま6ページの産業部門に当てはまります。9ページのエネルギー供給、ここの数字は産業、家庭、業務に振り分けられている。数字を細かく示していないのでわかりにくくなっています。その中で、事業者の取組ですね、電力排出係数の向上、関電さんの排出係数が良くなると見込んでいま

すので、その分につきましても家庭、産業に割振られることになり、6 ページに挙げています。

会長 ○実際の対応関係が連続してないので、部門と施策の括りがわかるように最後の段階で調整してもらいたい。

委員 ○専門の方がご覧になればわかることなのかも知れませんが、畑違いの人が見ますとね、これだけ横文字英語が並ぶと中身がわからないから書いてあることが良いのか悪いのかどっちを向いているのか、どうしても横文字英語を使わないといけないのか。それともわざとわからないように書いているのか。そこまで疑ってしまう。この文章を専門家だけに配るなら良いけど、一般市民を想定しておられるなら、紙代や印刷代がもったいない。トイレットペーパーにもならないものが山のように溜まるわけだから。

会長 ○委員会でも意見が出ているのでその辺はどうされるのか。科学的見地から書いていただくのと、市民にわかりやすくという点を。他にございませんか。

委員 ○今のご意見については、市民・学生・大学別にガイドラインを作っておられますので、そちらでご覧になったほうがいいのではないのでしょうか。計画そのものについては、国際的には COP15 のコペンハーゲン合意でなされたように、気温上昇 2℃以内に抑えるということを国際的には合意していますので、吹田として責任を果たすように、きちんとした定量的な方向性を打ち出すということが必要なので、できるだけわかりやすい説明にさせていただいていると思いますけども。言葉はやっぱり一般的に使われているもので、現在は普通になっている。それを計画の中で崩すのは難しい。

委員 ○例えば、カタカナ英語が使われた時に、括弧して日本語も併記する。一番後ろのビジョンを見ながら読まないといけないというのはちょっと困難だ。

委員 ○具体的にカタカナというのはどこでしょうか。

委員 ○環境パートナーシッププラザの開設というところ。自動車とか飛行機とかならイメージできる。委員の一人として文章に書かれていることの 80%はわかるようにしていただきたい。専門の方との知識の量が違う。どちらにあわせて文章をつくるかということ。

事務局 ○できるだけ注釈をつけるのと、14 ページの表につきましては、施策ごとに内容を書いたものを計画の中に入れ込むことにしております。

委員 ○4 ページの多量排出事業者の一覧ですが、市民病院は書かれているのに市役所が書かれていない。何故入っていないのか。

事務局 ○国に届出を出しているデータの数値をとっています。その結果、ごみ焼却施設である北工場、南吹田下水処理場、泉浄水所、市民病院、こういったところが多量排出事業所として該当しますので、実績に挙がっています。本庁舎の年間の CO2

排出量は約 1,000 トンということで、法律の届出対象にはなっておりませんでしたので、こちらの表からは外れているということです。

委員 ○資料の 9 ページ上段ですが、エネルギー供給の部門で、風力発電、中小規模水力発電というのを掲げておられますが、今風力発電については一時色々な市が採用しましたが、実際は当初の計画のような発電力が期待できない。雷などでそのものが壊れてしまうこともあって、まず吹田市で設置が可能なのか、可能ならばどういうところで考えているのか。

事務局 ○実際に数値として見込んでいるのはほとんど太陽光発電、後はバイオマス、地下水を利用した温度差利用でして、風力発電についてはほとんどゼロです。確かにここに挙げるのは適切ではないかと思えます。

会長 ○おっしゃるとおりで、基本戦略ですからここに挙げるとなると、風力発電をやることを考えることになります。中小規模水力発電も到底考えられない話なので。

事務局 ○今、吹田市内で風力発電は大型のものはございません。それは、ペイしないということだと思んですが、風力で発電できない市ではないということです。買取価格が今後どうなるかによって一気にペイする可能性もありますし、今のままですとなかなかペイをしない。諸外国の例で行くと全量買取制度が広がっていくと一気にペイすることも考えられますので、項目としては挙げておきたい。計算上ではゼロに近い。ただ、今でもされているところはございます。例えば関西大学内部でされています。

会長 ○中小規模水力発電はどうか。

事務局 ○他事例になりますが、水道局の階層型の浄水場の中で落差を利用した発電をされているとかがございます。

委員 ○本気度と申しますか、14 ページの一覧の中の低炭素型まちづくりで具体的なことを言いますと、車に依存しないということで、毎月 20 日のノーマイカーデーの取組をどれだけ本気で取り組んでいるのかとともに、車に依存しないということはそれに代わる交通手段、公共交通手段もあわせてですけども、ここにも書かれている駐輪場の整備ですけども、まず市民の方含めて、自転車置き場が満杯で、とめるところすらないと。まずそういうところからの整備をすることが本気度をわかっただけだと思うのですが。別に自転車置き場を広げろとかそういう意味ではなく、本気度が問われていると。

会長 ○自転車の活用についての施策、CO2 削減を含めてどうお考えか。

事務局 ○恐れ入ります。これまで自動車利用を中心としたまちづくりを本市は行ってきました。決して歩行者、自転車が中心になっていない。そういう意味では、部門別にまちづくりという少し違和感のある分野を入れさせていただいているのは、運輸形態をどう変えるかということだけではなく、まちづくりそのものを変えない

と。例えば車から歩くに変えるとか、公共交通機関を快適に利用するということが実現できないと。そういう意味で運輸だけの問題ではないなど。これは長期的な問題でもあるんですが。歩く、自転車を利用するまちにするためにどうするのかという、結果として駐輪場の話であるとか、歩道の整備であるとかそういうことが出てくるのかなど。短期的にはいきなりここに駐輪場をとかいう、それもございしますが、中長期で議論をして解決する話だと考えております。

委員 ○言葉とか分類ですが、4 ページの上段では国の分け方に沿っているという説明でしたでしょうか。エネルギー転換となっているのが、9 ページではエネルギー供給となっていて、意味があって分けているのか、言葉を統一しなくていいのか、というのが一点と、言葉がわかりにくいという点では、5 ページの予測結果のところ、現状趨勢ケースをBAUとあって、BAUというのがどういうものを表しているのか見えにくい。説明があるとか、このケース以外にあるけどもこれをとっているとか、ちょっと説明があったほうがいいのかと思います。

事務局 ○現状趨勢の方につきましては説明を入れるようにいたします。9 ページのエネルギー供給と4 ページのエネルギー転換はまったく別物です。エネルギー転換というのは、大きくは発電所で電気を作るときに放り込んだエネルギーのうち、電気に変えられた部分以外のもの、施設を動かすために用いたもの等、ロス分をここでは言っていて、エネルギー供給については、この字のとおり、再生可能エネルギーですとか、関電さんの排出係数の低下、具体的には原発の稼働率が上がるということですので、全く中身が異なります。

委員 ○先ほどリンクの話もありましたけれども、順番も変わってくるのでわかりやすくしたほうがいいんじゃないかと思います。あともうひとつは、9 ページの廃棄物の対策内容のところ、ごみの分別によって廃プラスチックのリサイクルとマイバッグを書いている、おそらくマイバッグは微々たるものだと思うので、この二つ目の点が見込み量の大部分を占めると思うんですが、これは吹田市の施策の大転換になるじゃないですか。と言うのも、計画の中にこういう形で盛り込むだけでいいのか、廃棄物減量等推進審議会というのが今までやっていましたけど、簡単にこれでいいのかというのがちょっと気になりました。

事務局 ○量的な話だけで言いますと、見込める量としましては、マイバッグと廃プラスチックではそんなに大きな違いは無いです。それ程廃プラスチックの量を見込んでいないということです。

事務局 ○どういう表現にさせていただいたらいいのかは検討させてください。この中身というのは、廃棄物の審議会から答申をいただいているので整合を図らないといけないですし、表現の仕方について少し検討させていただきたい。

委員 ○二つの対策の見込み量がそれほど変わらないのであれば、マイバッグのほうはよ

りいっそう推進していかないと達成しないでしょうし、ごみの分別の方法を変え
るということは、廃棄物減量等推進審議会は現在開かれていないので、それを改
めて審議しないことには、計画を基に進めるというのは難しいのではないかと
思う。それと11ページの推進体制で、仮称ということで協議会の名称がつけられ
ていますが、これまでも見えているような顔というか、事業者、市役所、市民団
体とかだったら関連してますし、アジェンダさんも今まで一緒にやってるとい
うのもあるのですが、家庭部門というのを考えますと、自治会をどう上手く組み込
んでいくかということが重要で、この表現だけでいいのかなという気がするん
です。吹田の場合はある程度の自治会組織が維持できていますし。

事務局 ○今の点ですが、おっしゃるとおりこの図を書くときに非常にそこは迷いました。
個人を書くのか、世帯はどこに位置づけられるのかということだったんですが、
地域協議会の大きな目的としましては、まずひとつは多量排出事業者がどうい
う取組をしていくか、見守っていくかというラウンドテーブルを一つ作ろうと。そ
れと市民一人ひとり、世帯というのは同じテーブルではないんではないかとい
う考えがありました。既にアジェンダというテーブルがありまして、そこには個人
も、事業者も入ってまして、ダブった形にはなりますけれども、環境家計簿等
で直接世帯に働きかけるやり方、環境教育フェアというのもございます。それ
とこの地域協議会というふうに色分けをしたほうが効果的ではないかという議論
をしております、どの自治体も答えをお持ちではないと思いますが、まずはこ
れでチャレンジしたいなという想いではございます。

副市長 ○悩むところなのですが、ウエイトが大きいところは家庭部門で、どうい
うふうに入っていくか悩ましいところ。そのときにライフスタイルを変えていた
だかないとローカーボン化は進まないと考えています。

会長 ○協議会の性格をもうちょっと整理していただかないと。ひとつのやり方
としては、公募型で市民を選ぶというものもありだと思えます。

副市長 ○協議会だけでライフスタイルのところまで入れるかというのも悩ま
しいところ。

会長 ○これはPDCAのチェック機能もあるわけですね。そういう意味では実行
する部隊だけではなくて、チェックする人が入ってもいいわけですね。

委員 ○9ページの基本戦略ですけれども、京都メカニズムなんかで示された
排出権取引がまったく無いですね。他域に移植した場合は排出量を相殺でき
るという関係があったと思うんですけれども、吹田市では京都メカニズ
ムの排出権取引を使わないようになったのは何故ですか。教えてください。

事務局 ○この計画を策定する際に最初に議論したことなのですが、国家レ
ベルでは京都メカニズム、排出権取引と森林吸収、国内努力の3本で6%減らす
ということ

が、基礎自治体として何に取り組むべきかということで、森林吸収と排出権取引、これを完全に視野に入れないということではないんですが、市内の努力、真水の努力で25%という目標を達成しようというのが環境世界都市吹田を標榜する吹田市の責務ではないかと、そういう高いハードルからスタートしまして、今後排出権取引、大阪府でもそろそろ検討されているようですけども、システムが構築されてきましたら乗るということは十分考えられます。

委員 ○そういう意味でいうと、風力発電というのも現時点では無いけれども可能性としては残しておきたいと、かたや採用しながら、こういう話は可能性として拒否はしないけれども載せないんだよというのであれば、何を取捨選択するのかという話にもなるんでね。私確か、東京の練馬区に行ったときに、自治体の努力として排出権取引をやるんだと言っていたのでね、向こうはほんまもんの環境世界都市に選定されて、吹田市は自分で語っているだけとか名乗っているだけですよ。国の基準で選定したときに吹田は落選しているんで、自分で名乗っているところが積極的な取組をしていないというのは、やっぱりそれはしかるべきということにもなりますんでね、環境世界都市やるっていうんであれば、ほんまもんの環境世界都市に選ばれた練馬区ぐらいのね、努力をやって追いつかないことにはずっと追いつかないって言うことを指摘しておきますんでね、お願いしますわ。一行書くか書かないかで可能性を残すというのならね。

会長 ○真水とは別の話で検討は必要ですね。

委員 ○4ページの市内の事業所さんのベスト20、ワースト20というか出てるんですけどね、行政が民間事業者に対してプレッシャーをかけるときね、サンクションまではいかないですけども、氏名を公表するという条項を入れたりしますよね、こういう書き方をするとベストなの、ワーストなのとなりますので、統計的な資料というか、名前数字を入れなければならないというのなら出典が必要だと思う。姿勢を示さないといけない。大阪大学さんなんて、日本から世界へ発信するような研究をされているところに対して、これだけ出して氏名公表までしているという見方もできなくはないので、慎重に取り扱っていただきたいと思うのですが、いかがですか。

会長 ○大阪大学としては、公表していただいてもよろしいので。もうちょっと注釈つけていただいたら。大阪大学の中でも事業場がたくさんあるんで、病院もあるし、レーザーもあるし、高エネルギーを使うところもあるので、ただそれぞれが努力して削減していかないと駄目なので、大阪大学としては省エネ委員会を作ってっております。

副市長 ○出典ははっきりします。

委員 ○それぐらいは最低していただかないと、資料の作り方としてはまずいですよね。

それと最後の一点なのですが、7ページの2050年までの期間の書きぶりが私としては可笑しく映るんですが、脱物質化、ポストマテリアル的な話を学術的な言説から引っ張ってきているのではないかなと思うんですが、ここまで書いてしまうとファンタジーに見えてしまう。結局物に頼らずとも豊かさに満ちた世界が実現しているんだという、言い切っているところが、どういう観点でこう書けるのか、観点の説明はいらないですけどもね、2050年が終わった後の話をする場合は、実現しているといいなとか、実現しているであろうとか、なんかちょっと工夫がいりますよね。ポストマテリアルを掲げて精神世界に頼りますよみたいなところで、それでも豊かさに満ちてるんだ、満ちていますと、ちょっとこれ工夫してください。少し抵抗を感じます。以上です。

委員 ○8ページの家庭部門の省エネ行動の実践の中で、マイカー利用の抑制というのが入っていないんですね。公共交通の利用促進であるとかはありますが、これに比べてマイカー利用の抑制というのは、各国が力を入れていますよね。

会長 ○運輸部門とまちづくりの中にそれを入れているかと思えますけれども。

委員 ○直接的にはマイカーについては全く出てこないですね。野菜の下ごしらえに比べて圧倒的に個人の排出量としてわかりやすいですからね。

会長 ○先ほどの議論と関係しますけれども、車関係を家庭から離しているの、その辺がわかるようにしないと。

委員 ○個人の省エネ行動としてはやっぱりマイカーが圧倒的に大きいしわかりやすい。

会長 ○運輸部門での自動車走行距離の節減とかで、直接的にはわからないかも知れないけども、入っていることは入っている。ちょっとはっきりわかるようにお願いします。

委員 ○個人にアピールすることは必要だと言われているので、できるだけクリアにしてほしい。

会長 ○いただいた意見を事務局で整理していただいて、新実行計画の策定委員会、そちらに持っていくということでもよろしいでしょうか。よろしく申し上げます。それでは続きまして、吹田市環境まちづくりガイドラインについて説明お願いいたします。

事務局 ○<資料2 説明>

会長 ○ご質問及びご意見お願いいたします。

委員 ○ひとつはライフスタイル版を見せていただいて、実行計画の中の8ページに家庭部門でいくつかピックアップされて書かれているんですけど、この中で野菜の下ごしらえというのがわざわざ書かれているのに、ライフスタイル版には無い気がしたのですが。わざわざ大きな計画には書かれていて、こちらには無いというのはどういうことなのでしょう。後は、食器洗い機の導入とかね、これはお金が

かかる話なんですけど、機器の導入ということは書いてあるんですけど、そこはライフスタイル版にはお金が新たにかかることは書かないのか、後は、電球を省エネ照明に取り替えるということを書かれていたのですけれども、併せて考えるとどうなのでしょう。

事務局 ○野菜の下ごしらえについては、それなりに省エネ効果があるということで書かせていただいています。ライフスタイル版の方ですけれども、実際に計画とのリンクはしておりませんでして、ここには32項目を挙げていますが、実際にはそれ以上に挙げていただいた中で、取組易い項目を挙げていただいています。今回ご意見としていただいたものは委員会の中では伝えさせていただきたいと思えます。

委員 ○ここに書かれているのに、できることじゃないですか。下ごしらえってガスとかお湯で湯がいているのを、電子レンジでしたらやわらかくなってというような、電子レンジはほとんどの家にあると思うんですよ。やればできてこっちのほうが環境にいいですよというのなら入れておくべきだと思うんですが。食洗機についても、実際には水の節約になるっていうのはメーカーも言ってますよね。吹田市が省エネだと考えるのならライフスタイル版にも入れておくべきではないかなと思います。

事務局 ○入れさせていただきます。

委員 ○それから、事業活動版のほうですが、ステップ1,2,3ときて、後はお金がかかりますよね。普通だったらだんだん下に伸びていって難しくなるのかなと思うところが、3にきて突然ダイエット宣言が最初で○が付くんですよ。ページをめくった時いきなり5ページでステップ3から使用しますとなっていて、それだったらステップ3の所を出してきたらいいんじゃないかと。なんで前に出てくるのかなと。現状を知ってからやってくださいねというのなら、後にまわしても何の問題も無いのじゃないかと。

事務局 ○これにつきましては、市民版の環境家計簿を基に作っておりますけれども、構成については修正をさせていただきたいと思えます。

会長 ○以上ご意見いただきましたので反映よろしく願いいたします。それでは、続きまして吹田市第2次環境基本計画の進行管理についてご説明をお願いします。

事務局 <資料3説明>

会長 ○それではご質問及びご意見をお願いします。どうもありがとうございます。それでは、最後に報告案件1、吹田市遺伝子組換え施設に係る環境保全の確保に関する条例改正（案）について、及び2、吹田市環境影響評価条例改正（案）について、報告を受けたいと思えます。

事務局 ○恐れ入ります。これまで環境審議会におきまして、吹田市遺伝子組換え施設に係

る環境保全の確保に関する条例改正（案）及び吹田市環境影響評価条例改正（案）についてご審議を賜り本当にありがとうございました。現在両条例（案）につきましては、前回の審議会において委員の皆様からいただきました意見を参考に協議を行いまして、12月の定例会に議案として提出をさせていただいております。本日、委員の皆様のお手元にはご参考に両条例の現行・改正案対照表をお示しさせていただいております。ご報告とさせていただきたいと思います。なお、環境影響評価制度に係ります技術指針につきましては、今審査会でも引き続きご審議いただいているということですので、また改めてご報告する機会もございますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

会長 ○ありがとうございます。それでは、資料4,5についてはまた詳細に見ていただくということですのでよろしくお願いいたします。予定の議事が終わりましたので環境審議会を終了したいと思います。

--閉会--